

ミラノ便り No.13



2回目のワクチン接種も終わり、ホッとしたのも束の間。ワクチン3回目接種という次のステージの話も各国で出始めています。ニュースでも連日目にする「Terza dose」の文字。2020年のイタリアは10月下旬から感染者が急増したこともあり、今年への対策への関心が高まってきています。



■初めて覚えたイタリア語は何ですか？

私は「Ciabatta, pronto」です。チャバタという種類のパンが準備できたという意味ですが、スポーツ用語の「リベロ」、スイーツの「ティラミス」等、日本でも使われている単語を除けばこの一文が始まりでした。「グラッチェ」は通じないので除外✕

20年前の9月、東京は青山のカフェでアルバイトをしていた頃に教わった言葉です。イタリア政府観光局の方とお話をする機会があり、他にも「Bravo はブラボーではなく ブルァ〜ヴォ」であること等、色々とお話していただいたことを今でも覚えています。

昔からパンが好きでしたし、大学からほど近いアルバイト先でしたので毎日通いました。お陰でフォカッチャ(Focaccia)、プロシュート(Prosciutto)など、スパゲッティ以外のイタリア食に触れたのもこの頃です。ちょうどサッカー・セリエAで日本人選手が活躍し始めた時期でもあり、ASローマの試合やチーム情報を連日観ていました。今思えば、これがイタリアに関心を持ったきっかけかもしれません。みなさんのイタリア文化を知るきっかけは何でしょうか。



■イタリア共和国の共通語

共和国制度ということで各地域での地元愛の強さを感じています。10km離れた場所ですら文化が全く異なるという話はよく耳にします。地元大好きな人も多い、いわゆる地域密着型。1993年に発足したJリーグもヨーロッパの地域制度をモデルにしています。

発足から四半世紀経過した現在、当時から激増した競技人口の多さを見ればサッカーは成功事例と言え、地域交流の推進という理念に沿っていると言えるでしょう。イタリア語の「Provincia」の意味通り、長野県内のプロ2チームはプロヴィンチャ(地方クラブ)としてサポーター同士の会話に出てくることもしばしば。

各地方が独自色を持つ中、標準語はどこ地域の言葉になるか。日本であれば東京で使われている東京語が相当し、明治時代に教科書を作るときに東京の言葉を使ったから、というのが始まりだったと記憶しています。

イタリアの件について数人に意見を聞いてみたところ、標準語の基盤となったのはフィレンツェ(トスカーナ州)。しかし、現在はミラノの言葉であるとミラノの人は言います。たしかに、政治はローマ・経済はミラノという様に、二都市の機能は別物。ただ、他国から見た場合の訛りの強さがその二つの都市では大きく違うそうです。ちなみにミラノの証券取引所、建物前には中指を立てた巨大な彫像があります👉

その言語発祥のフィレンツェでは“C”の発音が“H”に近いと聞きましたが、残念ながらその発音を観光レベルでは聞くことができませんでした。
Coca cola ⇒ ホハ・ホ〜ラ 、 casa ⇒ ハ〜ザ 。。ミラネーゼもそう教えてくれますが本当でしょうか😁

イタリア語に“H”の発音が無いので、ハヒフヘホよりも弱い音だということです。
いつか生で聞いてみたい!! と今でも思っていますので、それはまた次の機会に👇

■トルコに無いトルコライス、ナポリに無いナポリタン



日本文化が好きで友人に対して、この話をする時がいつか来ると思っていました。
「日本にはナポリタンっていうメニューがあるんだよ。ケチャップを使うんだけどね🍅」
友人等は漫画・アニメ・歴史・言語など、かなり日本に理解のある部類だと思っています。
そんな彼らだからこそ話せたのですが、いつも以上に目を丸くして、予想通りの反応をしてくれました。Mamma Mia! (°Д°)

イタリアの初ロックダウン時、パイナップルの乗ったピッツァだけが売れ残っていたことから「イタリアでのピッツァはかくあるべき」という文化が形成されているのでしょう。
日本のピッツァには餅やカレーがトッピングで乗っているものがあることについても
「Mochi〜?」と日本独自のテイストを完全にダメ出しされてしまいました。

とは言うものの、日本の寿司もイタリアでは違う味になっているし、日本人が作っているわけじゃないよね。その国の味覚・嗜好に合わせて変化していくんだね。そんな結論に達し、日伊の関係にひびが入ることなく、より深い相互理解へと繋がりました。



余談ですが、パルマにある Academia Barilla が「イタリア料理でやってはいけない 10 選」を公表したことの紹介記事(2013 年版)を読んだことがあります。その中に「スパゲッティにケチャップをかけてはいけない！」もバッチリ含まれていました。

イタリアの食品を質の悪い模造品から守り保護する。食品保護こそが制定目的ですが、確かにスーパーの食品を見ると生産地は必ず表示、DOP (Denominazione di Origine Protetta) 等のマークもよく目にします。



上記 DOP マーク等の資料提供：イタリア大使館貿易促進部

<https://www.ice-tokyo.or.jp/information/dop-igp-stg2017>



2021 年 9 月